

きょうは、十五夜です。



### 中秋の名月と、紫式部

「今宵は十五夜なりけりと思し出でて、殿上の御遊び恋しく、…」

石山寺から、琵琶湖に映る十五夜の月を見て、都から遠く離れた地に流された一人の貴公子が、中秋の名月を見上げて、都を思い出している。

物語を書くことを切望されていた紫式部。

この一説が、「源氏物語」の書き始めになりました。

美しい月が、大切な人を思い起こさせて、千年の時を超えて読み継がれる物語を紡ぎ始めたのかもしれない。

人は、美しい月を見上げた時、大切な人を思い浮かべるのかもしれない。

今宵は十五夜です。

紫式部も見上げていた中秋の名月。千年の時を超えて見上げてみませんか。



平安時代、数多くの貴族や女流文学者が参拝する「石山詣」の舞台となった石山寺の東大門＝大本山 石山寺（滋賀県大津市）  
写真提供：(一社) 石山観光協会

### 印傳屋は「第76回 正倉院展」に協賛いたします

印傳屋が受け継ぐ鹿革工芸「甲州印伝」の系譜をたどると、さまざまな文化が華開いた奈良時代にたどり着きます。東大寺には、鹿革を用いた国宝「ぶどうからくさくさもんそめか葡萄唐草文染草くつうまのくら」が今に伝わり、御物が収められる正倉院にも鹿革の履や馬鞍などが現存しています。正倉院に収められている日本の革工芸の源流にある品々を含め、奈良時代の日本の技の粋を集めてつくられた貴重な歴史資料が、いつまでも後世に伝わってゆくことを印傳屋は願っています。

「第76回 正倉院展」 2024年 10月26日(土)～11月11日(月) 会期中無休 【主催・会場】奈良国立博物館 【特別協力】読売新聞社